

日本共産党 市議会議員団 ニュース

発行
日本共産党
川西市議会議員団
連絡先
市役所控室
TEL740-1111
議員団直通
fax759-1811

議員連絡先
土谷一郎
TEL : fax793-2134
黒田みち
TEL : fax790-3055
住田由之輔
TEL : fax759-4541
大塚寿夫
TEL : fax793-2243

12月議会報告3 請願審査報告

「後期高齢者医療制度の即時廃止の 意見書提出を求める請願」・否決 黒田議員が賛成討論

請願者の全国組織、全日本年金者組合篠塚委員長は、「新政権ができたらずに廃止して

くれると思っていたのに、総選挙が終わったから先送りだ」という。「廃止」を叫んだのは総選挙に勝つための方便だったのか。来年度には、保険料が60000〜70000円値上がりするという話も聞くし不安。一旦廃止して、そこから本当に安心して医療を受けられる制度をつくるべきです。」と意見を述べ運動されていますが、これは国民のたくさんの声で、9月1日時点で、655自治体から「廃止を求める意見書」があがっています。全国で、毎日4000人が75歳の誕生日を迎え、後期高齢者だからと家族から退け者にする保険証が届きます。死ぬまで保険料を取られながら「必要な医療」は提供されず、差別されます。診療報酬の引き下げで、「病院」は経営が成り立たなくなるため、高齢者を追い出しにかかる実態が続いています。

（65〜74歳の障害認定を受けた方も対象のひどい中身です。）保険料の滞納で、「資格証明書」の発行。保険証の取り上げ等、実質医療を奪うこととなります。

委員会では、「老人保健法」は問題があるから、元に戻せない・・・という意見がありました。この間、民主党議員は、「一旦老人保健法にもどし、医療政策の問題点は是正する。」「老人保健制度にもどし、来年度予算要求で国保の手当てをする。」と委員

会等で発言。「75歳で人を区別する信じられない発想」と鳩山由紀夫氏自身も非難していたのに、政権についた途端、廃止に「まった」をかけるから「廃止に変わりない」などと、国民の期待に背を向けてもらっては困ります。

●公明党・民主市民クラブが反対討論をしました。

●自治市民クラブは賛成討論をしました。



入浴サービス継続 求める請願・可決

「ふれあい入浴サービス、老人福祉センター・地域交流スペースにおける入浴サービス事業の継続を求める請願書」

高齢化がすすみ自宅のお風呂に入れない方が増えてい

ます。改修できない家もあります。生きていくための「衣食住」といいますが、高齢者の入浴はかかすことのできない大切なもの、身体を清潔にするだけではありません。人と交流することで、心と身体

どちらも温まるのです。昨年度は、年間61000人の方が利用、約1500万円の決算でした。

高齢者が、いつまでも元気でいきいきと地域で活動されるために、この「入浴サービス」は廃止ではなく、継続を求め、請願に賛成します。

●自治市民クラブは賛成討論をしました。

「就学前のこどもの医療費無料化を求める請願」・可決

この6月定例会にも同じ内容の請願が提出され、「趣旨は理解するが、川西市の財政事情を考えると採択できない。」という理由で、不採択になりました。

私達日本共産党は、毎年の予算要求で、こども達のいのちに経済的な理由で格差をつけてはならない、川西市の優先課題としてとらえ、財政措置をするべき、その事が川西市の少子化対策にもつながると訴え続けています。

この間、就学前のこどもの医療費無料化が近隣の市町でも当たり前になりました。猪名川町では、所得制限なし。伊丹市では、入院時の給食補助も。通院補助は、三田市・西宮市では、小学校3年生まで。入院は、中学校卒業まで・・・とどんどん自治体間格差が広がっています。

阪神間でも少子化が進んでいる川西市として、余りにも遅れた「市独自補助」を就学前まで拡充し、安心の子育てを応援していただけるよう、ぜひこの請願を採択していただければ幸いです。

国は三位一体改革で、自治体への交付金や負担金を激減させ、川西市でも「行財政改革SR作戦」と称して、川西市の障がい者「福祉金」「市独自の福祉医療費助成制度」を段階的に廃止しました。

「障がい者医療費助成制度に関する請願書」・可決

特に、医療費の負担は、病

上へのことはやらない。」とした市の姿勢を厳しく批判し、障害の区分で「廃止」してはならないことも強く訴えてきました。

今回提出された「障がい者医療費の市独自補助」を求める請願は、当然の要求と考えます。議会の総意として兵庫県に「福祉医療費助成制度の拡充」を求めることが決まりました。

川西市として優先的に財源確保をし、独自補助を実現させ、自治体としての責務「福祉の増進」を果たすよう強く求めて賛成討論とします。

ねばり強く要求、ついに多数が賛成

入浴サービス廃止やめよ・就学前までこどもの医療費無料化・障害者医療助成求める請願採択さる

昨年6月議会では、「子ども医療費無料化」賛成は日本共産党だけでした

「細菌性骨髄炎ワクチンへの助成を求める請願」・「否決 黒田議員賛成討論」

「兵庫県建設国民健康保険組合運営助成金の継続を求める請願」・「否決 黒田議員賛成討論」

この9月定例会、「細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化を早期に求める請願」を採択、川西市議会の総意として国に対して意見書を提出していただいたところで

全国的な運動が広がる中、国への「定期接種化を求める」意見書提出が進んでいます。が、国の実現をまつ間も、その危険に直面して

「ヒブワクチン」について乳幼児のいる家庭に十分情報が伝わるようにすること、経済的理由で予防注射が打てないことがないようにするために、川西市としての独自補助を一步進めるべきではないでしょうか。

この近隣では、西宮市や三木市が、3000円の補助。全国的には補助年齢や補助額も大きく異なりますが、乳幼児への接種の効果が明らかであるだけに、早期に自治体が独自助成を行なうことが、国の「定期接種化」を応援、後押しをすることに繋がります。

国民皆保険制度の一つである「建設国保」。この厳しい社会・経済状況の中で、「いのちと健康を守る」立場で、その運営を担って尽力されている組合支部。

H11年から、年間80000円の運営補助金が支給されてきました。

川西市の行財政改革の中で、「補助金の見直し」が行なわれていることやその経過など何の報告もなく廃止されたことは問題です。

また、廃止したことの通知だけで説明責任を果たしていません。

市として、請願趣旨にあるよう、「組合財政の安定と保険料の水準維持」の役割を果たしてきた「運営補助金」に対して、その役割を継続する手立てを取るよう強く求め、賛成討論とします



請願への態度一覧

Table with columns for '請願' (Request), '日本共産党', '民主市民クラブ', '政雲会', '公明党', '智政会', '自治市民クラブ', and '交渉団体無所属'. It lists various requests such as '後期高齢者医療制度の即時廃止の請願', '入浴サービス事業の継続を求める請願', etc., and indicates the stance of each group.

Table with columns for '交渉団体の名称' (Name of Negotiating Body), '幹事長' (Chairman), '所属議員名' (Name of Member), and '人数' (Number of Members). It lists groups like '民主市民クラブ', '政雲会', '公明党', etc., and their respective members and counts.